

がん薬物療法(全般)



服薬情報提供書(大阪版)

処方医	科	先生	保険	名称	
患者ID			険	住所	
患者名			薬	TEL	
			局	FAX	
患者同意	☐ 同意を得た。	☐ 同意は得ていないが、 治療上重要と考えるため報告します。	担当薬剤師		

確認日	年	月	日	対応者	☐ 本人	☐ 家族	☐ その他 ()
レジメン ・薬剤名				確認 方法	☐ 投薬時	☐ その他 ()	
					☐ テレフォンフォロー時	☐ 患者からの問合せ時	

発熱 (37.5度以上)	☐ なし	☐ あり	呼吸困難、息切れ、空咳	☐ なし	☐ あり
感染症様症状 (喉の痛み、排尿時痛など)	☐ なし	☐ あり	重篤な出血 (消化管出血・血尿・咯血など)	☐ なし	☐ あり

受診勧奨の実施 ☐ なし ☐ あり → ☐ 上記症状のため ☐ Grade3以上のため ☐ 休薬が必要と思われたため

(※) 皮膚科・腫瘍内科コンセンサス会議

有害事象 【CTCAE v 5.0】	Grade1 (軽症※)	Grade2 (中等症※)	Grade3 (重症※)
下痢	☐ なし ☐ ベースラインと比べて<4回/日の排便回数増加;ベースラインと比べて人工肛門からの排泄量が軽度増加	☐ 4-6回/日の排便回数増加;人工肛門からの排泄量の中 等度増加;身の回り以外の日常生活動作の制限	☐ 7回/日以上排便回数増加;入院を要する;人工肛門 からの排泄量の高度増加;身の回りの日常生活動作の 制限
便秘	☐ なし ☐ 不定期または間欠的な症状;便軟化薬/緩下剤 /食事の工夫/浣腸を不定期に使用	☐ 緩下薬または浣腸の定期的な使用を要する持続的な 症状;身の回り以外の日常生活動作の制限	☐ 排便を要する頑固な便秘;身の回りの日常生 活動作の制限
悪心	☐ なし ☐ 摂食習慣に栄養のない食欲低下	☐ 顕著な体重減少、脱水または栄養失調を伴わ ない経口摂取量の減少	☐ カロリーや水分の経口摂取が不十分;経管栄 養/TPN/入院を要する
嘔吐	☐ なし ☐ 治療を要さない	☐ 外来での静脈内栄養を要する;内科的治療を 要する	☐ 経管栄養/TPN/入院を要する
食欲不振	☐ なし ☐ 摂食習慣の変化を伴わない食欲低下	☐ 顕著な体重減少や栄養失調を伴わない摂食量 の変化;経口栄養剤による補充を要する	☐ 顕著な体重減少または栄養失調を伴う(例:カロリー や水分の経口摂取が不十分); 静脈内輸液/経管栄養 /TPN 要する
口腔粘膜炎	☐ なし ☐ 症状がない、または軽度の症状;治療を様さな い	☐ 経口摂取に支障がない中等度の疼痛または潰 瘍;経口栄養剤による補充を要する	☐ 高度の疼痛;経口摂取に支障がある
末梢神経障害 (末梢性ニューロパチー)	☐ なし ☐ 症状がない(臨床所見または検査所見のみ)	☐ 中等度の症状;身の回り以外の日常生活動作 の制限	☐ 高度の症状;身の回りの日常生活動作の制 限
倦怠感	☐ なし ☐ だるさがある、または元気がない	☐ 身の回り以外の日常生活動作を制限するだる さがある、または元気がない状態	☐ 身の回りの日常生活動作を制限するだるさ がある、または元気がない状態
高血圧 : 成人	☐ なし ☐ 収縮期血圧(sBP)120-139 mmHgまたは拡張期血圧 (dBP)80-89 mmHg	☐ sBP140-159またはdBP90-99;内科的治療の変更;症 状を伴うdBP> 20の上昇;単剤の薬物治療を要する	☐ sBP≥160またはdBP≥100;2種類以上の薬物治療ま たは以前よりも強い治療を要する
手足症候群 (※)	☐ なし ☐ 手掌、足底に違和感があり、発赤はないか、わずか に見られ、疼痛はなく、日常生活の作業に差し支え ない	☐ 手掌、足底に発赤、水疱形成がみられ、疼痛を時に 感じ、日常生活の差支、歩行に差し支えることがあ る	☐ 手掌、足底に発赤が著明で、大型の水疱がみられ、 強い疼痛を常に感じ、日常生活の作業が行いづら く、歩行しづらい
ざ瘡様皮疹 (※)	☐ なし ☐ 顔面を中心に全体で20個前後の丘疹、膿疱を認め る。疼痛、そう痒はない。日常生活は気にならない	☐ 顔面、躯幹に全体で50個前後の丘疹、膿疱を認め る。疼痛、そう痒を時に感じ。症状について他人か ら指摘される	☐ 顔面、躯幹、四肢に全体で100個前後の丘疹、膿疱 を認める。疼痛、そう痒を常に感じる。他人との面 会が億劫である
	☐	☐	☐
	☐	☐	☐
	☐	☐	☐

疼痛(部位・NRS・コントロールの状況など)、症状の詳細、指導内容、提案事項、その他

病院記載欄		返信日	年	月	日
☐ 報告内容を確認しました。	☐ 報告内容を確認し、処方医へ報告しました。	病院名	大阪はびきの医療センター		
☐ 提案内容を医師へ伝えました。	☐ 次回受診時・診察前面談時に検討します。	薬剤師			
☐ その他 ()					

【 その他（3項目選択可能） 】

味覚異常	☐ なし	☐ 食生活の変化を伴わない味覚変化	☐ 食生活の変化を伴う味覚変化(例：経口サプリメント);不快な味;味の消失	
皮膚乾燥 (※)	☐ なし	☐ 体表面積(BSA) <10%を占め、紅斑やそう痒は伴わない	☐ BSA10-30%を占め、紅斑またはそう痒を伴う;身の回り以外の日常生活動作の制限	☐ BSA>30%を占め、そう痒を伴う;身の回りの日常生活動作の制限
そう痒 (※)	☐ なし	☐ 軽度または限局性;局所的治療を要する	☐ 広範囲かつ間欠性;掻破による皮膚の変化;内服治療を要する;身の回り以外の日常生活動作の制限	☐ 広範囲かつ常時;身の回りの日常生活動作や睡眠の制限;副腎皮質ステロイドの全身投与または免疫抑制療法を要する
爪囲炎 (※)	☐ なし	☐ 爪襷の浮腫や紅斑;角質の剥脱	☐ 局所的治療や内服治療を要する;疼痛を伴う爪襷の浮腫や紅斑;滲出液や爪の分離;身の回り以外の日常生活動作の制限	☐ 外科的処置を要する;抗菌薬の静脈内投与を要する;身の回りの日常生活動作の制限
皮疹 (斑状丘疹状皮疹)	☐ なし	☐ 症状の有無は問わない(例: そう痒, 熱感, ひきつれ);体表面積(BSA) <10%を占める斑状疹/丘疹	☐ 症状の有無問わない, BSA10-30%の斑状疹/丘疹;身の回り以外の日常生活動作の制限;BSA>30%を占める皮疹	☐ 中等度/高度の症状を伴う, BSA>30%を占める斑状疹/丘疹;身の回りの日常生活動作の制限
蕁麻疹	☐ なし	☐ 体表面積(BSA) <10%を占める蕁麻疹;局所治療を要する	☐ BSA10-30%を占める蕁麻疹;内服治療を要する	☐ BSAの>30%を占める蕁麻疹;静脈内投与による治療を要する
湿疹	☐ なし	☐ 症状がない, または軽度の症状;ベースラインを超える内科的治療の追加を要さない	☐ 中等度;外用薬または内服治療を要する;ベースラインを超える内科的治療の追加を要する	☐ 重症または医学的に重大であるが, ただちに生命を脅かすものではない;静脈内投与による治療を要する
浮腫 (全身性浮腫)	☐ なし	☐ 診察で明らか;1+の圧痕浮腫	☐ 身の回り以外の日常生活動作に支障がある;内服治療を要する	☐ 身の回りの日常生活動作に支障がある;静脈内投与による治療を要する;皮膚の離開
疲労	☐ なし	☐ 休息により軽快する疲労	☐ 休息によって軽快しない疲労;身の回り以外の日常生活動作の制限	☐ 休息によって軽快しない疲労で, 身の回りの日常生活動作の制限を要する